

令和7年度 江戸川区立下小岩小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	自ら考える子・・自ら学び他者と協力して課題を解決する子 心豊かな子・・多様性を認め他者と共に生きる優しさをもつ子 たくましい子・・何事にも自ら挑戦しようとする前向きな子	目指す学校像 元気に登校、楽しく生活、満足して下校できる 笑顔あふれる学校 目指す生徒像 みずからチャレンジ 笑顔かがやく 下小岩の子 目指す教師像 チームとして協働し、互いに切磋琢磨する教職員
前年度までの本校の現状	成果 ・ベーシックドリル・よむYOMUワークシートの推進と定着 ・算数の授業スタンダードを基にした授業改善と学力向上 ・なわとびチャレンジウィークの区1位の上昇率 ・学校ホームページの運営と情報の発信	課題 ・読書科や図書ボランティアの活動をより多く発信していく ・新校舎を活用した生活科、総合的な学習の時間の授業実施 ・保護者アンケートを基にして、学校関係者評価を活用した教育活動の改善 ・読み解く力の向上 ・学校における「働き方改革プラン」の継続的な実施

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進	・学習規律の徹底 ・黒板掲示カードを活用した問題解決的な学習の実施 ・4年以上の教科担任制の実施 ・国語科「説明的文章」を軸とした読み解く力の向上を図る指導の実施 ・江戸川区国語スタンダードを活用した授業の実施	・児童肯定的評価80% ・実施率100% ・全学年で交換授業の実施 ・教科担任制の実施 ・校内研の研究授業を全学年で実施 ・全担任の年1回授業公開を実施	60%	90%	C	・全学年で交換授業は実施率100% ・4年生以上で教科担任制(社会・理科・国語)の実施率100% ・4月に6年生が実施した全国学力調査では、国語・算数ともに全国平均正答率を上回った。 ・国語科の校内研究授業を4・5・6年で3回実施。	C	・交換授業は児童が様々な教員に触れるので有効である。 ・日本語力の向上を図るためにも、一層「国語」に力を入れていってほしい。	A	・教員アンケート7「できた、わかったという授業・教材研究」実施率91% ・児童アンケート5「先生は分かりやすく教えてくれる」肯定的回答94% ・4年生以上で教科担任制(社会・理科・国語)の実施率100% ・4月に6年生が実施した全国学力調査では、国語・算数ともに全国平均正答率を上回った。 ・6年全国学力調査 国語A・B層合わせて58.7%	A	・学力調査で全国の平均正答率を上回っているのが素晴らしい。 ・次年度も4月に6年生が実施する「全国学力調査」で算数・国語ともに全国平均を上回るよう、児童の実態に即した学習課題を継続的にやっていく。	
	○基礎基本の定着	・学習タイムの実施	・ベーシックドリル診断テスト定着率10%アップ ・週15分×2回の時間の保障	60%	60%	C	・ベーシックドリル診断テストの実施し、定着度は6年生で向上が見られた。 ・黒板掲示用カードを全学年で作成し活用	C	・定着度向上の具体的な根拠を示してほしい。 ・6年生以外は向上は見られないのか。	C	・ベーシックドリル診断テスト定着率10%は達成できなかった。引き続き指導を重ねていく。 ・児童アンケート12「朝学習に進んで取り組んでいる」肯定的回答89%	B	・毎日の積み重ねが学力向上につながる。引き続き朝学習は大切にしてほしい。 ・ベーシック診断テストの結果を基にして、児童の学習課題を焦点化した学習タイムの充実化を図る。	
	○一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現	・週2回授業支援アプリを活用した学習タイムや宿題（東京ベーシックドリルなど）での取組 ・1日1回のICTを活用した授業の実施（パワーポイント、ミライシード・オクリンクなど）	・実施率100% ・年3回studyweekの実施 ・実施率80%	55%	80%	C	・週2回授業支援アプリの活用は順調に取り組むことができていく。 ・studyweekは1回実施 ・2学期から校内研究の協議会でICTを活用し情報を共有	B	・週2回のアプリ使用は、100%の中でどの程度実施できているのか。 ・ICT機器の導入とともに、問題点（児童への影響）もしっかりと検討していくべきである。	B	・児童アンケート15「1日1回授業でタブレットを使用している」肯定的回答80% ・studyweek実施率100% ・全6回の校内研究の協議会でICTを活用し情報を共有できた。 ・教員アンケート10「タブレットやICTを活用した授業の実施」73%	B	・ICTの活用は推進していても、字をしっかりと書ける力の育成は大切にしてほしい。 ・児童がICTを効果的に活用できる能力の育成を図っていく。	
	○読書科の更なる充実	・「江戸川っ子 読書科コンクール」の全員参加 ・教科指導で学校図書館の積極的活用 ・公共図書館との連携強化 ・よむYOMUワークシート、よみうりワークシートを活用した家庭学習の推進	・実施率100% ・学級で週1回以上の活用 ・毎月1回の図書ボランティアによる団体貸し出しの実施 ・週1回よむYOMUワークシート(5・6年) ・週1回よみうりワークシート(3・4年)	60%	90%	C	・10月より学校図書館の電子化による運営が開始する。 ・毎月1回の図書ボランティアによる団体貸し出しを実施 ・図書ボランティアによる読み聞かせは毎月行うことが出来ている。 ・よむYOMUワークシート、よみうりワークシートのより良い活用方法を提案し、2学期より改善	B	・整備された図書館や読書科を通して、さらに児童の読解力の向上を図っていただきたい。	A	・「江戸川っ子読書科コンクール」を全児童で参加し、実施率100%達成。 ・児童アンケート17「読書科の調べる学習は楽しい」肯定的回答82% ・毎月1回の図書ボランティアによる団体貸し出しを実施率100% ・週1回のよむYOMUワークシート(4・5・6年)、よみうりワークシート(3・4年)の実施率100% ・児童アンケート16「朝読書に進んで取り組んでいる」肯定的回答82%	A	・よむYOMUワークシート(4・5・6年)、よみうりワークシート(3・4年)の実施はこれからも続けてほしい。(新聞記事を読むことは大切) ・次年度も、「よむYOMUワークシート」と「よみうりワークシート」を継続的にを行い、読解力の向上を図っていく。	
体力の向上	○運動意欲の向上	・全員外遊び（中休み）の奨励 ・体力テストの実施と分析 ・体育授業の改善	・学級の実施率90% ・体力テストの結果10%の向上 ・体育の実技研修年間3回実施	60%	75%	C	・2学期から校庭の活用が始まり、全員外遊び（中休み）を積極的に実践 ・校庭の固定遊具、一輪車使用により校庭遊びが活性化 ・体育の実技研修は未実施	B	・校庭が完成したので、今後、より体力向上に努めていってほしい。一輪車によるけがの配慮も必要である。	B	・児童アンケート7「休み時間に校庭や体育館で体を動かして遊んでいる」肯定的評価92% ・体力テストの結果は3項目で10%向上を達成 ・50M走は全学年で都平均記録を平均-0.3秒下回る結果となった。 ・体育の実技研修は実施できなかった。	B	・外で遊ぶことは引き続き推進してほしい。 ・体力テストでは、全ての項目で全国平均を上回るよう、指導を実践していく。	
	○食育の推進	・栄養士による食育に関する授業 ・給食後の歯みがき指導の実施	・年間1回以上の実施(各学年) ・HPへの献立をアップ(週2回) ・学校医・養護教諭による歯みがき指導を各学年に年1回の実施 ・フッ化物洗口、毎週水曜日に全学年実施100% ・歯みがき強化月間のお昼の放送を実施	40%	85%	D	・栄養士による食育に関する授業は10月に実施予定 ・HPへの献立をアップ(週2回)は現時点まで達成 ・10月より「フッ化物洗口」を全学年で実施開始予定	C	・これから実施される項目が多い。成果が得られるように実施してほしい。	B	・栄養士による食育に関する授業を全学年で1回実施 ・HPへの献立掲載は年間を通じて平均週1回以上あげた。 ・歯みがきを推進。虫歯の割合全学年平均18.8%を達成(区平均27%) ・「フッ化物洗口」は全学年で実施率100% ・児童アンケート18「給食後はみがきをしている」肯定的回答65%となり、課題がある。	B	・歯の磨き方の指導も推進してもらいたい。 ・虫歯0を目標にして、全学年で歯みがきを推進していく。	

	○なわとびチャレンジの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・なわとびチャレンジウィークの実施 ・なわとびカードの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回の実施 ・なわとび出前授業を年間1回全学年で実施 ・なわとびの技能20%向上 ・全学年で長縄大会 年2回実施 	50%	80%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・なわとびチャレンジウィークの2回目を10月に実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・なわとびの技能向上を図るための具体的な手立てが必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・なわとびチャレンジウィークは学期1回の実施率100% ・なわとび出前授業を年間1回全学年で実施 ・なわとび技能20%向上は未定 ・2月に長なわウィークを実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・なわとびの技能向上について、学校でアンケートをとってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川区の取組である年3回の「なわとびチャレンジ週間」の推進を図る。
実現に向けた教育の推進	○特別支援教育への理解・適切な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育研究会実施 ・校内委員会 月1回情報共有 ・副籍交流及び共同学習の実施・充実 ・ユニバーサルデザイン視点での教材教具や掲示物の工夫、視覚的支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回実施 ・実施率100% ・年2回の交流を実施 ・教員、児童肯定的評価80% ・研修会を年1回実施。 	60%	100%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会は予定通りに4回実施 ・副籍交流は2年生で2回実施 ・全普通教室にユニバーサルデザイン視点を意識した「ホワイトボード」を設置 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・児童肯定的評価80%はどのように測定されるのか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会は年6回実施 ・副籍交流は2年生と年3回実施 ・教員アンケート2「楽しい学校生活を送れるよう支援している」肯定的評価95% ・児童アンケート8「先生は、分からなかったり困ったときに話を聞いてくれる」肯定的評価90% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍児童への日本語指導も推進していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援に関わる研修の充実を図る。 ・ユニバーサルデザインの視点をもった教材研究を推進していく。
	○エンカレッジルーム・教育相談室の活用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室のSC,SSWの活用し、児童の居場所づくりの実施 ・日本語指導員の積極的活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月(SSW)・木(SC)の相談体制を強化 ・必要な児童の支援100% 	70%	100%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月(SSW)、木(SC)の取組における保護者への発信を実施。 ・日本語指導14名実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも児童が安心して相談できる居場所づくりは大切にしていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SSWを年間を通して週1回配置率100%。 ・日本語指導講師1名追加。日本語指導を19名の児童に実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・現状で出来ていることも多いが、今後の課題については具体的に考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度もSSWとSCを活用して、児童の実態に即した対応を推進する。
	○持続可能な社会の実現に向けて学びのある教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・区職員、地域人材を活用した防災授業の実施 ・地域と協力した防災体験を年1回実施 ・5年の総合的な学習の時間での防災教育を題材とした授業開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・40% 	100%	D	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と協力した防災訓練を計画中 ・5年の総合的な学習の時間での防災教育を題材とした授業を1学期に実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で防災教育ができるとうい。 ・地域一体となった防災訓練をぜひ実施してもらいたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と協力した防災訓練を1月に実施。 ・5年「総合的な学習の時間」で防災教育を題材とした授業を実施し、12月に区職員と体験学習を実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と協力した防災教育を引き続き推進していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の防災設備を活用し、次年度も地域と協力した防災教育を推進していく。
不登校・いじめ対応の充実	○不登校対策の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・Hot Projectに基づいた校内体制の整備 ・きつなづくり、居場所づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜日のSSW出勤を活かした相談・助言の有効活用 ・不登校児童を関係機関に100%繋ぐ 	70%	75%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SSWを活用し不登校傾向の児童への対応を強化できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、SSWとSCを活用した不登校児童対策を強化していただきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜日のSSW出勤を活かし、全ての「不登校児童」関係諸機関と連携100%達成 ・全く会うことができない「不登校児童」0名達成 ・児童アンケート4「先生は良いところをほめてくれる」肯定的評価90% ・保護者アンケート17「いじめや不登校に適切に対応し、児童一人一人の居場所がある学校づくりに努めている」肯定的評価61% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの状況把握は引き続きしっかりと行い、不登校児童が増えないように立っていただくことが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・学校・外部機関との連携をより充実させ、だれともつながりのない「不登校児童0」を目指した対応の強化を図る。
	○ふれあい月間の充実(6月・11月)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期1回の実施 ・いじめを題材とした道徳授業を年1回実施 	50%	100%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に学級でふれあい月間を実施し、全学級で悩みのある児童への個別指導は対応済み 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめをなくすために道徳授業にはしっかりと力を入れてほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい月間アンケートにより、いじめ認知件数212件。全案件解消済 ・児童アンケート2「友達と仲良くしたり、友達が困っていたら助けることができる」肯定的評価94% ・いじめを題材とした道徳授業を年1回実施率100% ・「江戸川区子どもの権利条約」について校長が講話を実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に学習規律をしっかりと身に付けさせていくことが、いじめの防止にもつながる。 ・相手の人権だけでなく、自分自身の人権にも目を向けるような指導も大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開日に、いじめ(友人とのかかわり)を題材とした授業を全学年で実施し、学校としての取組を保護者に伝えていく。
	○人権意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「江戸川区子どもの権利条約」について授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施率100% 	60%	80%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修プログラムを基にした年9回のミニ研修を実施 ・いじめ対応の継続事業0の達成 ・いじめ案件発生当日に100%実施 ・毎月L-Gateの結果を基に児童理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見は今後も力を入れていただきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修プログラムを基にした「ミニ研修」を年6回実施 ・いじめ対応の継続事業0達成 ・全学級で「L-Gate」実施率向上に課題 ・保護者アンケート2「おさんは楽しく学校生活を送れるよう支援している」肯定的評価95% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・L-GATEをもっと活用していくことが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対応継続事業0を目標とした教員研修を年間を通して定期的に行っていく。 ・L-GATEを全担任が毎日確認するよう促す。
学校(園)開かれた地域社会の実現	○情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動、地域行事への参加、HP等による情報公開 ・学校の教育活動を発信 ・年間3回の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP,連絡メールを活用した、保護者・地域への積極的な情報発信 ・学校日記の更新を年間170回以上を目標 ・実施100% 	80%	100%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HP,連絡メールを活用した、保護者・地域への積極的な情報発信は概ね実施 ・学校日記の更新を9月末時点で150回以上を実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では概ね達成していると評価できる。 ・地域行事への参加も積極的に発信していただきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート19「学校だより、学校HPなどで学校の教育活動の様子が分かる」肯定的評価93% ・学校日記の更新を年間313回を達成(1月時点) ・学校公開の年3回実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信の充実を引き続き図っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校日記の更新を学期100回を目標にし、学校の教育活動の発信を推進していく。
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回 学校評議員会の実施 ・保護者アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施率100% ・保護者アンケート肯定的評価85%以上 	40%	85%	D	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に学校評議員会を実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの内容により一層充実を図ってほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート 学校の教育活動に対して24項目中、肯定的評価80%以上18項目 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや評議員会からの意見をもとに、より多くの教育効果を高めるよう改善していく。 	
特色ある教育の展開	○異学年交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・たて割り班活動を年10回実施 ・全校遠足の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童満足度90% ・年間1回実施 	60%	85%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・たて割り班活動を5回実施 ・全校遠足を5月に実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では概ね達成していると評価できる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・たて割り班活動を年8回実施 ・全校遠足、5月実施 ・児童アンケート11「縦割り班活動で他学年と交流するのは楽しい」肯定的評価80% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年と低学年が協力して取り組める活動を、もっと増やしていくと良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に進めていく「たてわり班活動」の充実を図る。
	○「学校における働き方改革プラン」の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の一斉退勤日の設定 ・業務内容の精選 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間12回実施 ・学校評価を活用した業務内容の精選、改善 ・時間外勤務時間年間4.5時間以上の職員を0 ・2週間に1回、経営支援会議を実施 	60%	90%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の一斉退勤日を5回実施 ・ストレスチェックの結果において、全項目で全国平均より20ポイント以上ストレスが低い結果となった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内職員の仕事量の見直しと、分担の再構築を図ると良いと考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間月4.5時間以上の職員、月平均1.5人(7%)を達成 ・ストレスチェックは全国平均より20ポイント以上低い結果を達成 ・2週間に1回、経営支援会議を実施達成 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教員の時間外勤務時間の軽減を図ってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の定時退勤日の推進を図り、時間外勤務時間「月4.5時間以上」の割合を下げていく。